

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年7月31日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1671800447		
法人名	医療法人社団 萩野医院		
事業所名	グループホーム やつお		
所在地	富山県富山市八尾町井田 6 1 0 - 1		
自己評価作成日	2015年6月23日	評価結果市町村受理日	2015年8月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	平成27年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は、母体である萩野医院との連携により医療面が充実しており、利用者様の多種多様な健康状態にも対応しています。緑豊かで静かな環境の中、地域の方々とも、様々な地域行事に参加することで交流も深まり、グループホームとしての認知度も上がってきたように感じます。これからも、利用者様・ご家族様に安心・安全に過ごして頂けるよう努力して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者が「ゆっくり、楽しく、和やかに」いつまでも安心して暮らせるように支援している。経営母体の萩野医院と医療連携し、看取りについても家族と職員が連携を図りながらお互い協力して取り組んでいる。家族の面会も多く、毎年の家族アンケートや家族交流会を通して家族との信頼関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホームやつお

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年も理念の概念を学ぶ研修を行い、理念の重要性を再確認をした。毎朝復唱することで、気持ちの整理をしてから利用者との関わりを持つようにしている。	「ゆっくり、楽しく、和やかに」利用者がいつまでも安心して暮らせるよう、毎朝の申し送りで理念を唱和し、毎月のカンファレンスで確認・共有し、ケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が犬の散歩中に寄っていかれたり、散歩がてら回覧板をまわしたりしている。その他、地域行事の参加により地域の方と交流している。	毎週火曜日のボランティア訪問による紙芝居や歌、踊り等で楽しんだり、地元中学生や高校生の福祉体験を受け入れている。また、利用者の笑顔があふれる保育園への訪問や、地域行事への参加で地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生、高校生の授業の一環として、当ホームの概要、認知症の症状や介護について説明している。地域との交流の他、イベント等を利用し地域の方々にも広く発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、様々な研修・行事等の報告を行いご意見を伺っている。その意見を活かせるように事業所内で話し合いサービスの向上に繋げている。	行政センター、地域包括支援センター、地域の代表、家族等の参加を得て2か月ごとに開催している。事業所の活動状況を報告し、参加者との意見交換を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営において相談するなど、日頃から連絡を取り合っている。また、毎月、市の相談員が来所され、利用者や職員との会話を通じて連携を取っている。	行政センターと日頃から連絡を取り合い連携を深めている。また、毎月の介護相談員の来訪時に交流を図り、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束についての研修を行っている。利用者の心身の状態・行動を把握し、安全で自由な暮らしができるようカンファレンス時に話し合い、介護に取り組んでいる。言葉の拘束についても職員同士が注意し合っている。	身体拘束については、毎年社内研修会で拘束の定義を理解し、言葉の拘束を含めて身体拘束をしないケアに努めている。また、外出したい様子があれば、さりげなく寄り添い外出するよう対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する正しい知識を持つため研修を行っている。管理者は、職員のストレス等にも日々の会話の中から感じ取り、虐待に繋がらないようケアを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護福祉士支援研修及び介護・福祉に関する研修にて、権利擁護について学ぶ場を設けている。入居前に制度を利用されている方が居られる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には理解と同意が得れるまで説明を行っている。料金の変更時にも文書にて説明を行っている。その他、重度化に伴う機器等の負担についても、その都度説明を行い、同意を得てから使用している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年アンケート調査を行い家族からの意見を聞き、家族会にて内容や改善案について話し合っている。その他、面会時にも個別に話を伺いながら要望等がないか確認している。運営推進会議の中でも家族側の意見が出るため参考にしている。	家族の面会が多く、面会時には職員も話の中に入り、利用者や家族の要望を聞くように努めている。また、毎年の家族アンケートや家族交流会を通して意見、要望を把握している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、個別に職員と面接を行ったり、カンファレンス等で意見や提案を聞き、事業所内で話し合いを行っている。また、随時本部にも報告、連絡、相談をしている。	毎月のカンファレンスや個別の話し合いで意見、提案を聞くように努めている。ユニット間の入浴時間や掃除当番、業務の流れ等、都度、職員の意見や提案を受け入れ、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の能力、努力や実績、勤務状況等を把握し代表者に報告している。また、各職員が働きやすい勤務シフトを組み職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員を適材、適所の部署に配置できるように検討している。法人では介護の質が高まるよう、年間の研修計画を立て、毎月施設内研修及び集合研修（外部講師による）を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は研修会の参加を勧めており、研修を通じて同業者との交流を持っている。また、利用者の入院や新規の入居の時等でも他事業所と、サービスの質の向上のため情報の交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、本人と面談を行ったり、家族や担当のケアマネジャーからの情報を基に、十分な観察と寄り添う介護を心掛けている。要望や不安の把握に努め、安心できる生活へと支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入居時に家族と面談し要望や不安の確認をしている。入居後も面会時に利用者の状況を伝え、これまでの暮らしの情報も得ながら、家族との関係を深めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況に合わせてながら家族と話し合い、医療面では萩野医院と連携を図り、制度的な面ではおむつ券の申請等も含めて対応している。また、初期の段階で介護方法を見極め、職員間で統一を図りケアを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、やりたいことを知り、洗濯物たたみや茶碗拭きなどの力を発揮してもらっている。人生の先輩として尊敬し、共に喜怒哀楽を重ね豊かな生活が送れるように努力している。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信や家族の面会時に、本人の状況や家族への思いを伝えている。家族同士のつながりを大切に絆が深まるよう、手紙や電話のやり取りを継続している。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の利用者が多く、家族や知人の面会がよくある。近所のスーパー等に出かけた際にも利用者の知人に会うこともある。家族の協力により、知人宅への訪問も行っており、なじみの関係が途切れないように支援している。	散歩時に馴染みの知人と会話を交わしたり、近隣の友人、知人が面会に訪たりして、馴染みの関係が途切れないように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話を楽しんだり、相談をするなど、支え合う良好な関係が築けるように配慮し座席を決めている。また、ユニット間での交流も行っている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に相談に連れられ、丁寧に応じている。死亡により退去となった場合にも、職員は通夜や葬儀にも参列し家族支援に努めている。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしい生活をしていただくために、日頃の会話や行動の中から、思いや意向を把握している。会話の困難な利用者は、表情や行動を踏まえ家族からの情報を基に職員全員で考え、検討を重ねている。	会話の中から自然に気持ちを聞き出したり、行動や反応から思いの把握に努めている。申し送りやカンファレンスで職員が情報を共有し、ケアの統一を図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用し家族に記入していただいたり、本人から聞き取りをしたり、担当ケアマネジャーからの情報を参考にしている。また、日々の会話の中からの情報も聞き取っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態を毎朝、夕の申し送りで確認しながら持てる力を発揮できるように、食事、入浴、排泄などの介護について、日々柔軟に対応している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやカンファレンスで、本人が望む生活を考え、家族の要望を反映させながら、担当職員が中心となって話し合い、介護計画を作成している。	家族からこれまでの生活の様子を聞きセンター方式のシートにアセスメントし、職員から出された意見を参考にしながら計画を作成している。家族の役割が書かれた内容の計画で家族交流も図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは、毎日個別の入居者日誌に記録し申し送っている。申し送りノートを活用し情報の共有を図っている。介護計画は期間を設定し見直しているが、利用者の状況に応じて随時変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の訪問診療の他に、週に1度萩野医院からのバスに乗り医院にて、理学療法士によるリハビリを受けことができ、医療面での支援が充実している。また、家族の要望により病院の受診の付き添いを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週火曜日のボランティアでは、紙芝居を読んでもらったり、歌や踊りのボランティア、保育園児との交流、地元理容店が馴染みとなり定期的な楽しみがあります。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制で萩野医院より医療を受けことができ、利用者、家族より安心できると好評をいただいている。また、専門的な治療が必要な場合は主治医より他院の紹介をしている。	母体医療法人のかかりつけ医から医療についての説明を受けられ、本人・家族が安心できる医療連携体制がとられている。医療依存の高い利用者の対応も可能である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、毎日体温や血圧を測定し、食事や排泄などと共に顔色なども観察し気づいたことを看護師に伝え、看護師が菟野医院と連携を図り主治医の指示により適切な治療や看護が受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、早期から地域連携室と連絡を取り、利用者の家族が安心して納得できる治療が受けられるよう努めている。入院中も相談を密接に行い、退院後には、これまでの生活にいち早く戻れるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所は、立ち上げ当初から終末期ケアを実践している。契約時、体調変化時、看取り段階に入った時と、何度も本人や家族と話し合いを重ね理解を頂き、できることを検討し、苦痛の緩和や精神的な支えも図りながら、最後まで本人らしい暮らしができるよう努めている。	入居時に看取り指針の説明を行っている。状態変化し重度化が進んだ段階で話し合いの場を設け、説明を繰り返し同意を得ている。看取り期ではスタッフだけでなく家族にも来てもらい家族と一緒に過ごす事で絆が深まった方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当事業所にはAEDが設置されており、毎年救命入門コースの研修を行い、全職員が学び実践力が身に付くよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員、年2回の消防訓練に参加している。地元の消防署と相談しながら昼夜を想定して訓練内容を決めている。災害に備えての備蓄品も防災の日に点検、入れ替えを行っている。	年1回消防署の協力を得て夜間想定避難訓練を行っている。他1回は日中想定で隣接する同一法人の事業所と合同で自主訓練を行っている。消火器の使用や消火栓での放水等実際に行っている。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人ひとりの人格を尊重した言葉がけを心掛けている。日々の会話の中でもプライドを傷つけないよう配慮し、職員間で話し合い注意し合っている。	排泄介助で利用者に接する時は特に気をつけるように注意している。トイレ誘導時や排泄後の確認は大きな声を出さないように、耳元で話すなど日々のケアの中で徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや気持ちを尊重し、支援に反映されるように定期的にアセスメントを実施している。目線を合わせ、声をかけ、本人の反応を見逃さないようにしながら、希望に応じた対応に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせて、起床時間や食事の時間の変更を随時行い、その方のペースに合わせた柔軟な対応に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昨年度、美容講習をわくわくおしゃれデーと名称を変え、職員と共に肌と肌の触れ合いを楽しんで頂いた。とても好評だったため、今年度は2回の実施を予定している。入浴準備時には職員と共に好きな洋服を選んでもらっている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し、苦手な食材はできるだけ差し替えを行い提供することで、食事を楽しんで頂けるよう支援している。食材の盛り付けや後片付け、茶碗拭きなど職員と一緒にやっている。	地元食材にこだわり季節感や栄養バランスがとれた献立となるよう、母体法人の栄養担当がメニューを作成している。利用者個々の好みに合わせた変更や状態に応じた形態など食べやすさに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や分量は個別に対応している。水分摂取の重要性を理解し、毎日の食事量と水分摂取量を確認している。水分を取ろうとされない方には吸収のよいスポーツ飲料を個別で用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを促し本人の状態に合わせて介助、見守りを行っている。義歯の方には入れ歯洗浄剤を使用し清潔を保っている。口腔ケアの重要性を家族に伝え、必要時、歯科受診を勧めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握することで失禁を減らし、トイレで気持ちよく排泄ができるよう支援している。介助が困難な方には職員2人で対応している。	日中はトイレ排泄を基本とし、個別記録に排泄チェックを行い個々のパターンをつかんで誘導している。また、尿量に合ったパットを選定する事で快適に過ごしてもらえる支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が心身に与える影響を看護師、職員は把握しており、起床時に冷たい牛乳を提供している。1日の水分量、運動量を把握し排便困難な方には腹部マッサージを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の体調や気分に合わせて入浴の時間や日程を随時変更している。個別に温度調節も行っており、排せつの失敗時などでもシャワー浴を行い気持ちよく過ごして頂けるよう支援している。	2ユニットで午前と午後に交互で入浴できるようにしている。本人が気持ちよく入れる言葉で勧めたり、着替えを一緒に準備するなど拒否なく入浴できる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	健康状態に合わせ、日中でも随時休んでもらっている。気持ちよく休めるように環境整備を行い、心地いい睡眠を促すため、日中のレクリエーションなどで体を動かして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を常に確認できる場所に保管している。服薬時には複数の職員により確認を行っている。新たな薬が処方された場合には看護師より説明を受け体調や症状を観察し報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者1人ひとりの役割を、日々の生活に生かし、当事業所での生活に楽しみを感じて頂けるよう、茶碗拭きや洗濯物たたみ、新聞折りなど、それぞれにあった作業を支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当事業所の周りは自然豊かで季節の移り変わりを日々感じ取ることができる。気軽に散歩に出ることが可能である。花見や紅葉狩りには八尾の名所に出かけ、遠方へは家族の協力により好きな場所へ外出されている。	家族との外出や地域交流も含めて月に複数回外出できるように行事計画している。回覧板を持って近所に行ったりスーパーへの買物や散歩など、できるだけ日常的に外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は家族よりお金を預かり、買い物などで必要な時には職員の付き添いの下、支払いをしてもらっている。また、一部の方にはお金を所持して頂いており、管理をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のプライバシーを尊重しながら、電話や手紙などの交流が持てるように支援している。ボランティアの指導のもと、毎年、年賀状を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花や、利用者が作成した塗り絵などを飾っている。和室では冬季にこたつを設置し、くつろいで頂けるようにしている。南側にあるベランダに出ることも可能で、天候に応じて温度調節を行っている。	車イス利用者もリビングではイスに座り替えてくつろいで過ごせるようにしている。座り替えする事が立位のリハビリにもなっている。リビングで利用者が集まって唄を歌ったりラジオ体操をしたりし、和室では貼り絵などの作業を楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで集まれるリビングのほか、周りを気にせず、ゆったりと外を眺められる場所がある。個人の居室にて利用者同士が会話を楽しめるように椅子が置いてある。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の延長と考え、使い慣れた家具や愛着のある品物を居室に置いてもらい、本人が望む落ち着いた空間作りをして、心穏やかに過ごして頂けるよう支援している。	利用者の状態変化によりベッドを電動式に入れ替えたり、車イスや歩行器等の福祉用具を使い易い配置に変えるなど、利用者一人ひとりの変化に柔軟に対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当事業所はバリアフリーであり、車いすや歩行器使用も安全に使用できる。建物内部はすべてわかりやすく表示し、安全に過ごせるように見守りを常時行っている。			

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム やつお  
 作成日 平成27年 8月19日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	アンケートにて「戸外に行きたいところへ出かけていますか」の結果、家族よりわからないと答えた方が5件あった。利用者の状況について、理解不足が考えられる。	①家族に利用者の外出状況等の報告を密にする。 ②利用者・家族の意向を確認し、必要に応じて計画を立てる。	①面会時や家族交流会などで、家族に報告する。 ②利用者の介護状況を勘案しながらもなるべく家族の意向に応じて、介護計画を立てる。	3か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。